

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23183

研究課題名（和文）浅沼稻次郎の政治指導に対する実証的研究：1925～1960年

研究課題名（英文）A Political History Study of Inejiro Asanuma's Political Leadership: 1925-1960

研究代表者

松本 浩延（MATSUMOTO, Hironobu）

同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員

研究者番号：30844089

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、主として国内の所蔵史料を渉猟しながら、戦後日本社会党の指導者である浅沼稻次郎の政治指導を実証的に分析した。史料調査の結果、戦前期の無産政党政治家時代の浅沼の政治的人格が明らかになっている本邦初の日記の翻刻・公開を行うことができた。また、戦後期の政治指導を形作っていた政治的状况としての「憲政の常道」の重要性に対する検討も行った。さらに、研究成果を基にして研究成果の対外発信をマス・メディアを通じて行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

野党指導者に対する政治史研究は、与党指導者のそれと対比して遅れをとってきた。それは本研究が対象とする浅沼稻次郎（1898～1960年）に関しても同様であり、浅沼自身を対象とした研究は、筆者による研究の他にはこれまで存在していなかった。本研究の成果には、研究の欠を埋めた点での学術的意義が存在する。さらに、本研究の成果の一部を新聞、テレビ、ネットメディアで発信できた点には一定の社会的意義が存在する。

研究成果の概要（英文）：In this study, I analyzed the political leadership of Asanuma Inejiro, leader of the Japan Socialist Party, from a political history perspective, mainly by searching through historical documents in Japan. As a result of my research into historical documents, I was able to transcribe and publish the Asanuma's diary in the beginning of World War 2. Also, I examined the importance of Normal Constitutional Practice (Kensei no Jodo) as a political situation that shaped Asanuma's political leadership in the postwar period. Furthermore, based on the results of my research, I offered my findings and the information with regard to Asanuma to the public through the mass media.

研究分野：日本政治史

キーワード：日本社会党 浅沼稻次郎 55年体制 政党政治

1. 研究開始当初の背景

(1) なぜ浅沼稻次郎なのか

いくつかの重要な例外を除いて、政治史研究において野党指導者を対象とすることは稀である。それは、筆者が博士論文で対象とした浅沼稻次郎(1898~1960年)に関しても同様であり、浅沼自身を対象とした研究は、筆者による一連の研究の他にはこれまで存在していなかった。浅沼が、1955年と1960年という戦後日本政治の極めて重要な画期に野党第一党の社会党の指導者として活動していた点や、公衆の面前でのテロによる暗殺という衝撃的な最期を迎えた事実があったにもかかわらず、である。

すなわち本研究の背景には、研究の欠を埋め更に研究を深化させていく必要性が存在していたのである。

(2) 野党政治家のリーダーシップ

同時に、「日本で政権交代可能な野党」やその指導者のリーダーシップに対する重要性が語られるようになって久しく、近年では野党の弱さが抱える問題点も指摘されている。こうした現実政治や社会の動向がある一方で、野党や野党指導者に対する研究は、与党やその指導者に対する研究と比較して少ない状況にある。本研究はこうした問題意識も背景にあった。

2. 研究の目的

(1) 本研究の当初からの目的は、初期の日本社会党指導者であり、長く野党指導者であった浅沼稻次郎の政治指導を史料実証的に明らかにすることにあった。この点は研究期間全体を通じて変更はない。ただし、当初重点的に取り組む予定としていた3つの課題、すなわち浅沼の戦前期の政治指導、米国との関係、中国との関係という3つの課題に対して主に取り組むものであった。

(2) しかしながら、2019年度末からの新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、上記課題を明らかにするため予定していた国外での史料調査を行うことが困難となった。そのため、研究計画を修正し、国内の史料を中心に調査を行いながら研究を進めた。

3. 研究の方法

「2. 研究の目的」でも述べたように、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、国外の資料館での史料調査が困難となったため、国内での史料調査を中心とすることとした。具体的には、国立国会図書館東京本館および同館憲政資料室、東京都議会図書館、法政大学大原社会問題研究所、軽井沢町立図書館、湘南大庭市民図書館、高知市立自由民権記念館、長野県立歴史館において史料調査を行い、適宜撮影・複写を行い、分析を進めた。

4. 研究成果

(1) 戦前期の浅沼 政治的人格に対する分析

戦前期に無産政党的政党政治家として活動していた浅沼の政治指導と、政治指導を形成していた浅沼自身の政治的人格に対する検討を行った。無産政党と戦後初期の日本社会党との間には人的に密接な連続性が存在するにもかかわらず、基本的な史実すら明らかにされていないのが現状である。

史料調査および分析の結果、戦前期の浅沼を貫いていたナショナリズムの存在を明らかにすることができた。本成果を、資料紹介の形式で「浅沼稻次郎『列国議会同盟派遣団 訪米・訪欧日記 1939年6月30日~10月2日』翻刻と解題」(『同志社法学』73巻1号、2021年)として発表した。また、研究発表の形式で、「無産政党政治家は第二次世界大戦の勃発をどう見たか 浅沼稻次郎『IPU派遣団訪米・訪欧日記』を中心に」(マチカネ政治史研究会〔大阪大学政治史研究会〕2021年6月13日)をおこなった。さらに本成果は、(3)で詳述する研究成果の社会還元の一環にもなった。

(2) 戦後期の浅沼 政治的状况に対する分析

戦後期に日本社会党的政党政治家として活動していた浅沼の政治指導と、政治指導を形成していた政治的状况に対する検討を行った。とりわけ、戦前期の政治的慣習である「憲政の常道」論が、浅沼をはじめとした戦後の野党政治家の政治指導を形作るうえで重要な役割を果たしていた点を指摘した。この点についての研究発表として、「浅沼稻次郎の戦後民主主義 『憲政の常道』と『五五年体制』の狭間で」(同志社大学人文科学研究所第10研究、2019年8月3日)、「戦後日本の憲政常道論」(第107回内務省研究会、2023年9月23日)がある。

(3) 社会還元

新聞

上記研究成果のうち、戦前期の浅沼の日記に対する読売新聞社からの取材を受け、研究成果の对外発信と社会還元とを行った。これは「浅沼稲次郎 欧米視察日記第2次大戦勃発 冷静な視点で」(『読売新聞』東京夕刊6頁、2021年5月29日)および「浅沼稲次郎の欧州視察日記 第二次世界大戦下 冷静な視点で描く」(『読売新聞』大阪夕刊6頁、2021年6月3日)として、新聞記事の形で掲載・紹介された。

テレビ放送・ネットメディア

日本放送協会のニュース番組(<キニナル!>墓から見える!?政治家の知られざる一面 NHK 総合テレビジョン ニュースシブ5時 浅沼稲次郎パート:ナレーションへの事実確認・コメント出演 2020年11月26日)に対して取材協力と情報提供を行った。

また、同特集が「お墓を見れば政治が見える」(『NHK 政治マガジン』日本放送協会、2020年12月16日、<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/49973.html>)にも掲載されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松本浩延	4. 巻 73巻1号
2. 論文標題 浅沼稻次郎「列国議会同盟派遣団 訪米・訪欧日記 1939年6月30日～10月2日」翻刻と解題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 83,145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松本浩延
2. 発表標題 浅沼稻次郎の戦後民主主義 「憲政の常道」と「五五年体制」の狭間で
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第10研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本浩延
2. 発表標題 「無産政党政治家は第二次世界大戦の勃発をどう見たか 浅沼稻次郎「IPU派遣団訪米・訪欧日記」を中心に」
3. 学会等名 マチカネ政治史研究会（大阪大学政治史研究会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本浩延
2. 発表標題 戦後日本の憲政常道論
3. 学会等名 第107回内務省研究会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究者データベース https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.1d9e6afa73e30b4e.html researchmap https://researchmap.jp/MATSUMOTOHi ronobu
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------